

第55回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

日 時：令和6年2月15日（木）18時30分開会
場 所：J F E リサイクルプラザ苫小牧

第55回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日 時 令和6年2月15日（木）18：30～20：00

・場 所 JFEリサイクルプラザ苫小牧

・議 題

- （1）住宅防音対策の進捗状況等について
 - （2）植苗地区道営住宅整備（第四期）について
 - （3）苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画〔改定版〕について
 - （4）その他
-

◎地域委員 出席者（15名）

◎北海道（6名）

◎苫小牧市（7名）

◎公益財団法人 新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎北海道エアポート株式会社（5名）

1. 開 会

● 苫小牧市（総合政策部参与） それでは、定刻前ではございますが、皆さんおそろいになりましたので、ただいまから、第55回新千歳空港24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を開催いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に基づき進めさせていただきます。

2. あいさつ

● 苫小牧市（総合政策部参与） それでは、協議会の開会に当たり、北海道交通企画監からご挨拶を申し上げます。

● 北海道（交通企画監） 皆様、こんばんは。

本日は、寒い中、また、足元の悪い中、本年度第2回目の協議会にご参加をいただきまして、ありがとうございます。

また、普段から皆様には新千歳空港の24時間運用並びに道の航空行政の推進につきましてご理解とご協力をいただいていることに関しまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

令和6年1月1日に能登半島の大震災がございまして、その次の日には羽田空港で非常に痛ましい事故が起きまして、亡くなられた方に心より哀悼の意を表したいと思っております。

私どもも年度当初からその対応に追われまして、非常に緊張感を持っていたつもりですが、1月16日に新千歳空港において外国機同士が接触するという事故も起きました。空港周辺にお住みの皆様にはご不安をおかけしたということで、非常に重く受け止めてございます。

道におきましては、羽田空港の航空機の事故を受けまして、1月5日に、北海道観光振興機構と連名で、私のほうから国に対しまして安全対策の強化、再発防止の徹底について要請をさせていただきまして、国からは、今後、しっかりと対策する旨のご回答をいただいております。

道といたしましては、道民の皆様の暮らしと命をしっかりと守るため、今後も引き続き真剣に取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞご理解いただきたいと思っております。

新千歳空港をめぐる状況をご案内させていただきたいと思っておりますが、新千歳空港におけます令和5年1年間の旅客数でございますが、国内線と国際線を合わせまして前年比46%増となりまして、2,225万人となっております。令和元年から4年ぶりに2千万人を超える実績となり、道内の活性化に大きく貢献していただけるものというふうに認識しております。

一方で、北海道の中では、様々な冬のイベントが開催されておりますが、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等も流行っておりますので、しっかりと基本的な感染対策に取り組みながら、経済を回していかなければならないというふうに思っております。

道内経済のさらなる活性化に向けましては、新千歳空港の果たす役割は誠に重要なもの

であると考えております。そのために、新千歳空港の24時間運用の推進につきましては、皆様のご理解とご協力の下、しっかりと取り組んでいかなければならないものと認識しておりまして、お約束いたしました住宅防音対策並びに地域振興対策につきましては、苫小牧市、財団、そしてHAPとの連携の下に、引き続きしっかりと取り組んでまいり所存でございます。

本日の協議会でございますが、皆様から忌憚のないご意見をいただいて協議会の推進に役立ててまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●苫小牧市（総合政策部参与） ありがとうございます。

続きまして、苫小牧市副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長） 皆さん、どうもおぼんでございます。

本日は、大変お忙しい中、また夜分にもかかわらず、こうしてご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

そして、地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃よりご理解、ご協力をいただいておりますことに、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げたいと思います。

初めに、ただいま交通企画監からもお話がございましたが、年明け早々に、能登半島地震、そして、羽田空港での衝突事故が発生したところであります。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されている方々に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、新千歳空港につきましては、コロナ禍の影響により大変厳しい利用状況が続いておりましたけれども、コロナの5類移行や全国旅行支援などにより航空需要が順調に回復しておりまして、今後もさらなる利用拡大が期待をされているところであります。

また、皆様とお約束をさせていただいている住宅防音対策につきましては、北海道や財団と連携しながら事業を進めているところでございますが、今後も、皆様からのご意見をしっかりと賜りながら、着実に実施をしてまいりたいと考えているところであります。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議へのご協力を心からお願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

3. 地域世話人の選出

●苫小牧市（総合政策部参与） 次に、3の地域世話人の選出についてでございます。

地域世話人の選出につきましては、前回の本協議会において、事務局の不手際があり、保留となっております。大変申し訳ございませんでした。

改めまして、委員の互選により選出となりますが、植苗地区については、新たな世話人としてA委員が推薦されております。また、沼ノ端地区のB委員、勇払地区のC委員は留任とお聞きしておりますが、皆様方、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●苫小牧市(総合政策部参与) ありがとうございます。

それでは、世話人につきましては、植苗地区がA委員、沼ノ端地区がB委員、勇払地区がC委員となりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

4. 議 事

●苫小牧市(総合政策部参与) 続きまして、4の議題に入ります。

(1)「住宅防音対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) まず、議題(1)「住宅防音対策の進捗状況等」につきましてご説明申し上げたいと思います。

それでは、資料の1ページをご覧くださいと思います。

こちらの資料の作成に当たりましては、住宅防音事業を実施しております新千歳空港周辺環境整備財団から提出のあった資料を基に作成しているものでございます。

初めに、1の「令和5年度の実績について」でございます。

苫小牧市の部分に関しましては、表の中央部に太枠で囲ってございますが、こちらが実績等々の数字になっております。

表の中の実績等の件数につきましては、令和2年度から4年度にかけて、HAPさんからご支援をいただきながら実施してきております、いわゆる高齢者優先枠という部分を含めた件数ということでご理解いただきたいと思います。

それではまず、表の一番左側の意向調査の回答数についてでございますが、これまでに地域の皆様からの工事の希望といった形でご回答いただきました件数等につきましては、合計で289件、372世帯となっております。

このうち、令和4年度までの工事の実績といたしましては、その隣の欄になっておりますが、一般住宅126件、127世帯、集合住宅2件、32世帯、合計で128件、159世帯となっております。

また、その隣の欄ですが、令和5年度分に係る計画数というところでございます。

この数字につきましては、昨年2月に開催いたしました協議会で報告させていただいた計画数ということになっておりまして、当初は一般住宅のみとなっておりますが11件、11世帯の工事を計画しまして工事を進めるといった形で提案させていただいたところでございます。しかし、協議会におきまして、地域の皆様方から工事件数を増やしてほしいといった強い要望があったということ踏まえまして、財団と協議をして可能な限りの工事の前倒しに努めました結果、令和5年度の実績につきましては、表の真ん中にR5実績

(①)と書かれている部分になりますが、一般住宅で申し上げますと13件、13世帯、新たに集合住宅1件、2世帯を加えまして、合計で14件、15世帯の工事を実施したところとなっております。

当初の11件、11世帯と比較いたしまして、3件、4世帯ほど追加で工事をさせていただいているところとなっております。

令和5年度は、この実績をベースに実施率を算出いたしますと、表の右から三つ目になりますが、一般住宅におきましては、件数換算で49.3%、世帯数換算で48.4%となっております。集合住宅につきましては、件数換算で42.9%、世帯数換算で41.0%、合計は、件数換算で49.1%、世帯数換算で46.8%というふうになる見込みとなっております。

なお、本来であれば、右から二つ目にあります翌年繰越(②)の欄がございますが、こちらも本来は令和5年度に実施する予定でしたが、施工主さんのご都合によりまして、急遽、令和6年度に繰り越すことになったものでございまして、この分を含めまして15件、16世帯というふうになっていたところでございます。

昨年2月の当初の計画と比較いたしますと、4件、5世帯の追加工事を行ったというふうにご理解いただければと思っております。

なお、千歳市の部分も含めました令和5年度の工事实績といたしましては、表の一番下のところとなっております。一般住宅、集合住宅を合わせまして119件、203世帯となっております。実施率につきましては、件数換算で44.1%、世帯数換算で46.9%というふうになる見込みとなっております。

さらに、翌年繰越につきましては、全体としまして、先ほどの苫小牧市分の一般住宅1件を加えまして、トータルで11件、25世帯となっております。令和5年度実績と翌年繰越の合計につきましては、2月に開催いたしました協議会の計画と同数の130件、228世帯というふうになるところでございます。

資料を1枚めくっていただきまして、2ページ目です。

まず、上段の2の「高齢者優先枠の実績及び今後の計画について」でございます。

先ほども若干触れさせていただきました高齢者優先枠ということで、HAPさんのほうから負担金をいただきまして、それを活用した取組といったようなことを令和2年度から実施しておりました。3年間の限定ということで工事を実施してきております。

令和5年度以降につきましては、高齢者優先枠の活用があった工事の残り分を繰り越しという形で事業を実施しているところでございます。

苫小牧市分に関しましては、令和5年度の実績といたしまして、一般住宅3件、3世帯を実施しております。令和4年度以前の工事实施分と合わせまして、工事の実績につきましては、表の一番右端になりますが、14件、14世帯の工事を実施したところでございまして、令和5年度末で苫小牧市内における高齢者優先枠を活用した工事につきましては、終了となる見込みでございます。

続きまして、その下にあります3の「令和6年度の実施計画について」でございます。

表の中央部分の太枠の部分が苫小牧市の部分となっておりますが、令和6年度予算分といたしまして、15件、16世帯の工事を予定しております。令和5年度からの繰越分と

して一般住宅分が1件、1世帯追加となり、合計で16件、17世帯の工事を現時点におきましては計画しているところでございます。

千歳市の分と合わせました総数は、表の一番下になりますが、令和6年予算分としまして111件、176世帯、令和5年度繰越分が11件、25世帯、それから高齢者優先枠分としまして16件、18世帯、合計で138件、219世帯の工事の実施を計画しているところでございます。

令和6年度の住宅防音工事に関しましては、まずはこの事業内容で計画をスタートさせていただきまして、令和5年度と同様に、工事の進捗状況に対応しながら工事件数の増といったようなものも随時調整しながらやっていきたいと思っております。

できる限り多くの工事ができるように、財団におきましては進捗管理を適切に図りながら行っていく予定でございます。

資料1に関する説明は以上でございます。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ないようでございますので、続きまして、(2)「植苗地区道営住宅整備（第四期）について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、引き続きご説明をさせていただきます。

(2)「植苗地区道営住宅整備（第四期）について」ということで、3ページの資料2をご覧いただきたいと思っております。

まず、1の「整備場所」についてでございます。

苦小牧市植苗地区の星ヶ丘団地内としておりまして、平成30年度以降、順次整備を行ってきているところでございます。

次に、その下の2の「整備戸数等」についてでございます。

こちらにつきましては、これまで3期にわたりまして、3LDKが9戸、2LDK14戸の合計23戸を整備してきております。今回の第4期といたしましては、これまで地域協議会でご説明をさせていただきましたとおり、3LDKを2戸、それから2LDKを4戸の合計6戸という形で建設をしてきたところでございます。

なお、3LDKの欄に括弧書きの数字があるかと思っております。こちらの合計8戸の分につきましては、地域の皆様から強い要望がございました小学生以下の児童が同居する世帯を入居条件といたしました、いわゆる特定目的住宅と位置づけをいたしまして入居者募集を行った住戸の戸数となっております。

それから、その下の「整備等スケジュール（第4期）」についてでございますが、こち

らにつきましては、令和5年1月に建設用地を購入させていただきまして、建設・整備を進めてきたところでございますが、土地の取得の関係ですとか、桜の木の対応の問題、さらに整備住戸の間取りの変更に伴う設計変更などに大変時間を要したというようなこともございました。当初の見込みから1年ほど遅れた形での整備ということにはなりましたが、令和5年3月に工事公告を行いまして、同年4月以降、入札・工事契約などを経まして、その後、建設工事のほうは順調に進んできたところでございます。

予定では、資料のほうにも記載させていただいてございます。ちょうど明日になりますが、建物の完成といったこととなつてございまして、3月1日に入居予定といった運びとなっているところでございます。

これに先立ちまして、昨年11月と12月には入居者募集を行い、12月上旬までに全ての入居者が内定したということで、世話人会の中でも説明をさせていただいたところではございますが、その後、本日の協議会等の報告に向けまして、先週、改めて入居の予定状況といったものを確認したところ、急遽ではございますが、内定辞退の申出が1件、判明したところでございます。

このため、急遽ではございますが、3月7日に改めて追加募集を行いまして、さらに抽選を行った上で入居者を決定するといった運びとなっております。

なお、入居の時期につきましては、地域の要望、特にD委員からの要望もございまして、学校の春休みの時期でもございまして4月1日を入居予定の時期といった形で公募をしていくということをお話を伺っているところでございます。入居者が決定しました段階で、改めてまたお知らせをしていきたいと考えております。

資料2に関する説明は、以上でございます。

●苦小牧市（総合政策部参与） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ないようでございますので、続きまして、(3)「苦小牧市植苗・美沢地区土地利用計画（改定版）」についてを議題といたします。

苦小牧市から説明いたします。

●苦小牧市（空港政策課長） 私から、4ページ、資料3の「苦小牧市植苗・美沢地区土地利用計画（改定版）」につきましてご説明いたします。

本計画につきましては、平成12年に策定した20年間の計画で、令和2年に計画期間が終了しております。その後、計画の検証を行い、評価や課題を取りまとめた後、新計画策定に向けまして、植苗・美沢地区の皆様をはじめ、国や北海道、市の関係部署等と協議を重ね、このたび改定版が完成いたしましたので、ご報告させていただくものでございます。

それでは、資料に沿ってご説明いたします。

初めに、5ページをご覧ください。

資料上段の「植苗・美沢地区の目指す姿」につきましては、空港アクセスに優れ、豊かな自然に恵まれた魅力的で大きな発展の可能性を秘めている植苗・美沢地区において、I Rをはじめとした国際リゾート開発の推進等と連動し、さらなる発展に寄与する取組を進め、空港と自然を生かした子育てしやすいまちづくりを目指します。

次に、「地域づくりの目標」につきましては、一つ目に、豊かな自然環境の保全、二つ目に、自然環境を生かした交流と教育の推進、三つ目に、居住者の生活環境の向上、四つ目に、環境と調和した交通基盤等の整備と、それぞれ具体的な説明を記載しております。

次に、6ページをご覧ください。

上段の「計画期間」につきましては、地域ニーズや社会・経済情勢の変化を考慮して、計画期間を10年とし、中間年で見直しを行います。また、下段の進捗管理につきましては、図に示しましたPDCAサイクルにより、毎年度、効率的に計画の管理を行います。

次に、7ページから8ページをご覧ください。

こちらは、四つの目標に対する13の事業・施策及び26の取組内容を記載しております。内容につきましては資料のとおりでございます。

市といたしましては、地域づくりの四つの目標の実現のために、10年間の計画期間の中で、国や北海道、植苗・美沢地区の皆様と連携を図りながら、しっかりと取組を進めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

E委員、お願いいたします。

●E委員 植苗のことですので、最後にとったのですが、この計画は周りが今、ラピダスをはじめ、この地域が非常に変わってきている前につくっていただいたような感じなわけです。

中身の7ページから8ページは説明いただかなかったのですけれども、私どもが一番危惧しているのは、6ページの進捗状況というのは、1年に1回やるのか、どの段階でやるのか、そして、私どもの地域のエアカーゴ対策委員会で説明は受けていますけれども、我々の納得する回答をしていただいた部分と、していただいていない部分が多々あると思うのです。今年は何れから、どの順番でやるのと言っても、曖昧な部分があるのかなと私は思っています。

ですから、ここでは10年間の計画となっており、5年たったから見直すと言っていますが、その前の、毎年度の進捗状況というのはどういう形でやるのかをご説明いただきたいと思っております。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、土地利用計画の進捗状況について、どの段階で説明があるのかという質問に関して、苦小牧市から回答いたします。

●苦小牧市（空港政策課長） 土地利用計画の進捗につきましては、今までの計画につき

ましても、北海道や市の関係部署に年1回、進捗状況を確認した上で、国や北海道、市で構成します推進連絡会議というものを開催いたしまして情報共有をしていたところであり、今後におきましても同様の作業を実施する予定でございます。

また、地域の皆様に対しましては、基本的には中間年で、前期5年の見直しを行う際に、植苗・美沢エアカーゴ対策委員会におきまして、皆様にこれまでの進捗状況をお伝えするとともに、改めて後期5年の計画の協議をしていくことになろうかと思っております。

必要に応じて地域の方々ともご相談をしながら、この進捗についてどういう方向で取り組んでいくかという協議をさせていただきたいと考えてございます。

以上です。

●苦小牧市（総合政策部参与） 質問としては、年1回報告するのかという意図だと思います。

●苦小牧市（空港政策課長） 年1回、エアカーゴ対策委員会でご報告したいと考えています。

以上です。

●苦小牧市（総合政策部参与） E委員、お願いいたします。

●E委員 これでは、どの段階でやるか、そして来年度、何に取り組むのか、全く具体性がないのです。今年の方はある程度言われました。だけれども、こういう状況で計画だけを出されても、我々もかなり課題を言っています。それに対して、できないなどと言われてますし、これでは、5年間で見直すだとか、また1年の進捗状況は、具体的に何月何日ぐらいのエアカーゴ対策委員会で報告するとか、ぜひ今、決めていただかなければ、何年たっても変わらないのかなと思う。

これに具体的なことはあまり書いていませんから。抽象的に書かれていますからね。やっぱり地元としては、細かく具体的に地域から言っていることがたくさんありますから、それをいつまでにやるのかということですよ。周りの時代の流れが非常に早いですから、それについていっていない計画書だと私どもは思っているのですよ。

だから、まず、何月のエアカーゴ委員会で状況を説明するのかということだけでも言っていただきたいと思います。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、年1回という報告ですけれども、どの段階で報告するのか、それから、今後の計画をどのように示していくのかというところで回答をお願いします。

●苦小牧市（空港政策課長） いつの時点で地域の皆様にとという話でしたが、4月から計画をスタートしていくわけですけれども、年度が終わるちょうど今ぐらいの時期だと思いますが、2月もしくは3月あたりにその年度の進捗状況を皆様にお伝えできればと考えてございます。

この計画の基本的な考えといたしましては、今、13の事業、そして26の取組内容をお示しましたが、本年4月から一斉に取組を始めていくイメージなのですけれども、内

容によりましては、関係機関等と協議、検討しながら進めていかなければならないものもあります。

今、こちらの計画に二重線を引いております9番、17番、21番、22番、26番につきましては、令和6年度に必ず実行するという事で記載させていただいておりますけれども、今すぐに取りかかれぬ部分も多くありますので、その部分につきましては、年度の最後の方で皆様にお伝えする時に、6ページの上の計画期間というところにも書いてありますけれども、この中間年の前後であっても、内容に変更が生じた場合は、関係機関、地域住民と協議の上、この計画を随時更新していくという考えでございますので、そちらについては、皆様と協議をして、修正を加えながらやっていきたいと思っております。

以上です。

●苦小牧市（総合政策部参与） 補足させていただきますが、今回、令和6年度、新年度に取りかかる事業については、下線を引いた部分を精力的に進めて、それは年度末の今のこの時期には結果を報告したいと思います。

ただ、令和7年度の計画に関しては、2月、3月に報告しても地域の方のご意見を反映できませんので、その辺りは植苗の地域、エアカーゴ委員会の方々と相談をさせていただいて、前もって、令和7年度はこういう形で進めていこうということを示して進めていければと考えております。

E委員、お願いします。

●E委員 私は、この問題に対して、例えば、今、線を引いたところをやるというけれども、今、地域住民が一番困っていることを、いつまでに解決できるということは回答をいただいている。

まず、8ページのコミュニティバスです。とこバスです。これはバス停にしか停まらないのですよ。先ほど、副市長をはじめ、能登の震災の話があったけれども、公共施設のファミリーセンター、道の駅に停まらないのです。これを何とか停めてくれといっても、バス停のところでなければ停まらぬと。震災があってもです。そのためにも、公共施設にはとこバスを停めてほしいということを常々お願いしているのです。

ここには出ていませんが、カヌー問題、これも解決できないのです。

だから、地域の課題はたくさん言っているのだけど、いつなんて言っても解決できていないわけですから、僕は、いつ検証してこれをやっていただけるのかと。今、能登は震災に遭って、そのためにコミュニティバスは大事だと私どもは思っているのですけれども、解決をしていただいているのです。

これは、たかだか一端で、まだまだお願いしていることがあるのです。5年で見直すと、そこまでにいく間に解決できるのかなと思うから、これはいつ進捗状況を確認するのですかということをお願いしているのです。

計画だけ書いていただいても、実行できないものを提案されても、これはやっぱり地域の発展になんか全然なりませんよ。

回答できなければ後日でいいです。以上です。

●苦小牧市（総合政策部参与） 1点目としては、コミュニティバスのバス停を増やしてほしいという要望があって、その辺りの進捗とカヌーの関係ということで質問がありました。

コミュニティバスについては、私から回答させていただきます。

コミュニティバスに関しては、地域で組織をしていただいていますコミュニティバス運営協議会というところで年1回報告をさせていただいて、それから、要望をどうしていくかということは審議をさせていただいております。

地域の声としては、道の駅、植苗ファミリーセンターに停めてほしいという要望がございます。こちらに関しては、防衛省の補助金を使っている、これが1点です。それから、地域の足として、公共交通として運営しておりますので、運輸局の届出が必要になります。その二つの点を確認している現状としては、地域の中に停留所をつくるというのはコミュニティバスのもともとの考え方とは違うということで、なかなか難しいとされています。

だからといって、地域の要望をないがしろにするわけではなくて、違う方策なども少し勉強させていただいて、地域の要望に応じていきたいということで、前回、回答をさせていただいています。その辺がまだ進んでいないということに関しては、これから持ち帰りまして、また地域のコミュニティバス協議会で報告をさせていただきたいと考えています。

それから、カヌーの関係です。

●苦小牧市（空港政策課長） カヌーの関係でございますが、これは過去から植苗地区の皆様から言われておりますけれども、新植苗橋の下流域でのカヌー利用はしないという地域の要望がございます。

こちらの件につきましては、法的な規制の中で、難しい部分があるということとは事実でありますけれども、市といたしましては、美々川の自然を守るという観点から、地域の方々の思いとは一緒でありますので、カヌー業者と引き続き粘り強く交渉を続けるとともに、今度、新たなガイドラインとして、美々川の在り方等も検討するなど、河川管理者である北海道とも連携しながら解決に向けて取り組んでいく考えでございます。

なかなか解決できていないが、コミュニティバスの件もそうですけれども、この計画期間の10年間でやり遂げようというふうに考えておりますので、この期間の中で、できるだけ早くこれらの部分を解決できるように鋭意努力してまいりたいと考えてございます。

●苦小牧市（副市長） ここに載せている土地利用計画は、当然、取組内容として載せていますので、10年間の中で実現していくという意気込みの計画であります。

ただ、10年間というスパンがどうなのか、その中でそれぞれの取組がどういう位置づけで、どういう内容で、どういう期間に取組を進めていくのだということを、本当は全て見せることができれば一番分かりやすいのだと思いますが、この中でも、令和6年度からすぐに取り組める項目もあれば、やはり相手方もあったり、法的な部分であったり、もう

少し私どもとしてもいろんな検証、検討を重ねなければ進まないものもあると思っています。

ただ、最終的にはこの取組を地域の思いとしてしっかりと受け止めながら実現を目指していくという気持ちは変わりませんので、私どもとしても、クリアしなければいけない部分は多くあるのですが、毎年の取組の検証というものもしっかり地域の皆様にお示しながら、地域の皆さんのご意見もお伺いしながら、地域と一緒に意見を踏まえた取組をしていけるように私たちもしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひこれからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

●苦小牧市（総合政策部参与） よろしいでしょうか。

D委員、お願ひいたします。

●D委員 今、副市長さんの言っていることに反論ではないけれども、地域としてあれだけ困って何回も陳情してきたことの答えがまだ出ないで、今の副市長の答弁は駄目だ。

このカヌーの問題は、決められているでしょう。出発点からどこまでと。それを守らない業者がたった1社あるだけで、守っている業者にも公平を欠いているし、我々地域も非常に困って訴えている。

新植苗橋からは許していないのですよ。それを下流まで下がるのだよ、1業者は。そういうことを許しては駄目なんだ。

せっかく鳥の憩いの場所として平成3年の12月にラムサール条約の登録を、日本で4番目に決めていただいた。今、ウトナイ湖には、丹頂鶴のつがいが3組か4組いるのですよ。みんな知っていますか。そういう鳥がいなくなるような人間の行為に何も苦小牧市が動こうとしていない。

私は、この地区で生まれ育って、101歳になりました。苦小牧のために、もう少し行政の方々も真剣にやってほしい。

以上です。

●苦小牧市（総合政策部参与） カヌーのご指摘ということですか。

●苦小牧市（副市長） カヌーの問題につきましては、地域からも再三要望がある中で早急に解決していきたい思ひはあるのですが、いろいろ法的な規制等も含めて解決に結びついてないという点について、私も大変申し訳なく思ひしております。

今、カヌーの問題については、釧路湿原で、カヌーコース以外の利用が後を絶たないということで、官民連携した協議会を立ち上げてガイドラインを作成し直して、そのガイドラインをみんなで守って、ルールを守らない利用者の抑止力につなげている事例を私たちがいろいろ調査しています。

自然環境を守らせるためには、カヌーを含めて利用させないというのが一番いいことではありますけれども、やはり自然との共生という観点も含めて、私たちとしては、ガイドラインの作成という場において皆さんで議論していただく、そういうところも考えていきたいと思ひています。

いずれにいたしましても、この課題、問題は10年近くたっておりますので、事業者との交渉はもちろんでありますが、他の方策についても試させていただきながら、地域からの要望である美々川の自然環境の保全に向けて、その都度、地域の皆様方にも情報共有、意見交換をさせていただきながら進めてまいりたいと思っております。

ここまで長引いていることについては、私も本当に申し訳なく思っておりますが、もう少しお時間をいただきたいという思いであります。

●苦小牧市（総合政策部参与） よろしいでしょうか。

●D委員 ぜひ守ってください。中途半端は駄目だよ。

少なくとも2年ぐらいの間に解決をしないと、公平を欠いている。4業者ぐらいいるのに、1事業者だけですからね、湖畔まで下がっているのは。新植苗橋のところまでということで始めたものを、苦小牧市は何を考えているのか、本当に恥ずかしいよ。気をつけてちょうだい。

●苦小牧市（副市長） 努力をしてみたいです。よろしく願いいたします。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ほかにございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、植苗・美沢地区土地利用計画については以上とさせていただきます。

最後に、（4）その他を議題といたします。

初めに、北海道から説明をいたします。

●北海道（新千歳空港周辺担当課長） それでは、その他のところで3点ほど報告をさせていただきたいというふうに思っております。

先般開催されました世話人会の席上で、世話人の方から、羽田空港での航空機の事故、新千歳空港におけます航空機同士の接触事故の関係、そのほかに新聞掲載もございましたヤマトグループにおけます貨物の新たな運航という記事を見たので、それにつきまして簡単に、現在把握している情報で構わないので報告をしていただけないかといったことがございましたものですから、その3点につきまして簡単にご報告申し上げたいというふうに思っております。

まず、1点目といたしまして、羽田空港におけます海上保安庁機とJALの航空機の衝突事故の関係についてでございます。

概要につきましては、1月2日の17時47分頃でございますが、新千歳空港発のJAL機が羽田空港のC滑走路に到着後、滑走路におりました海上保安庁機と衝突、炎上したといったものでございました。

この事故によりまして、JALに乗っていた乗員乗客の379名につきましては、全員脱出して無事であったというところでございますが、海上保安庁機に搭乗されていた方のうち、5名は不幸にして亡くなられているといったような大きな事故があったところでございます。

なお、事故後、閉鎖をされておりました羽田のC滑走路につきましては、8日に運用が再開されたところでございます。事故に伴いまして、C滑走路の運用停止が長期間あったため、遅延便も相当発生していたというような状況でございますが、この便数につきましては、現在、航空会社のほうで精査を行っている状況でございますので、我々も報告を待っているといった状況となっているところでございます。

事故原因につきましては、新聞報道等で管制の指示の取り違い等との報道がございますが、現在、国の運輸安全委員会で、調査のほうが行われている状況でございます。

これに関します国の対応につきましては、9日になりますが、管制官による監視体制の強化ですとか滑走路侵入に関するルールの徹底などの5項目を緊急対策パッケージの柱といたします安全・安心確保に向けた緊急対策といったようなものを取りまとめて公表されています。

あわせて、19日になりますが、国におきまして、有識者による事故対策検討委員会というものを設置しまして、夏を目途に中間取りまとめを行う方向で議論が進められているというふうにお聞きしております。

道の対応といたしましては、1月4日にはなりますが、JALのほうに遅延、欠航に関する搭乗客への適切な対応を要請するとともに、5日にはなりますが、観光振興機構との連名により安全・安心の確保に関する要望を国のほうに提出しているところでございます。

また、15日には、知事自ら国交省を訪問して、新千歳空港を含めました空港の利用における安全・安心を確保する取組の推進ということを要請しているところでございます。

あわせて、先ほどの遅延便が多くなっているというのは、便数はまだ確定はしてございませんが、そういった状況があるということで、我々といたしましても、空港周辺地域の騒音に関する負担軽減といった観点から、遅延便の解消に向けました航空会社への周知に関しまして、国ですとかHAPさんのほうにも協力をお願いをしたといったところでございます。

続きまして、2点目は、新千歳空港におけます大韓航空機とキャセイパシフィック航空機の接触事故についてでございます。

事故の概要につきましては、1月16日に、新千歳空港の国際線に駐機中のキャセイ機と駐機場から出発いたしました大韓航空機が接触をするという事故が発生してございます。

当時、大韓機のほうには乗員乗客289名が搭乗されていたようでございますが、けが人等はおらず、この事故による火災等ですとかオイル漏れなどは発生していなかったといったふうにお聞きをしているところでございます。

事故原因に関しましては、空港車両のスリップとかというようなことも報道等にはございますが、現在、航空会社等において調査を行っているというふうにお聞きをしております。

乗客への対応についてでございますが、大韓航空におきましては、ソウルから代替機を呼び寄せまして、皆さんにご迷惑かけた部分があるかと思いますが、夜に到着いたしました

もし情報があればお願いしたいと思います。

●苦小牧市（総合政策部参与） JAL機の衝突事故に関して、消火が遅かった理由にお答えできますか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） その関係につきましても、恐らく、今、運輸安全委員会のほうで調査をしている状況でございますので、我々のほうも現在のところはそこまで承知しかねているところでございます。

●苦小牧市（総合政策部参与） その辺に関して情報が入りましたら、また協議会等でご説明させていただきたいと思います。

ほかにございますでしょうか。

G委員。

●G委員 道の航空課が来ているのでちょっとお聞きしたいのですが、新千歳空港の協議会の関係で第3ターミナルの計画が進んでいるというふうに聞いているのですが、現在、どのぐらいまで進んでいるのか、どういう状況なのか、答えられる範囲でいいのですけれども、お答えいただければと思います。

●苦小牧市（総合政策部参与） 新千歳空港の第3ターミナルの関係になりますので、北海道エアポートから分かる範囲でお願いいたします。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当部長） いつもお世話になっております。

第3ターミナルの件なのですが、かねてから議論はございました。それで、航空需要の動向も踏まえながらいろいろ検討しているのですが、私どものほうとしては、コロナでいぶ毀損しまして、資金的な問題もあるということが一つと、これだけ大きな話になると、国も関連した話になるかなということで、今、関係者の方々にいろいろ議論されていらっしゃるしまして、その動向を見守っているところでございます。

●G委員 それから、LCCターミナルの関係も大阪とかには建設しているのですけれども、新千歳空港はLCCターミナルの関係についてどういうふうに考えているか、それについてお答え願いたいと思います。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当部長） 提案のときに、そういうお話もいろいろございました。これも、航空需要を鑑みながら今後検討していく話になるかなと思っております。

これから路線誘致とか、そういうことも拡大していかなくてはならないのですが、やはり足元の財務基盤の確立も急務でございまして、これを見ながら、投資計画についても、皆さんとお約束したことについては着実に実施していきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、ほかにございますでしょうか。

E委員、お願いします。

●E委員 四つか五つほどあります。

議題（1）と（2）にも関係するのですが、今日は交通企画監さんが来ていただ

いています。おかげで、苫小牧では最後の地域振興対策になるのでしょうかけれども、道営住宅を建設していただいて大変感謝しているところです。

防音工事にも絡むのですけれども、12月の遅延便が70便なのです。雪等の影響というのがあるのですけれども、極端に2時間も遅れているとか、機材不具合とか、こういう安全運航もできない航空エアラインなら、羽田空港の事故のようなことがいつ起きてもおかしくないなと感じているわけです。

こういう遅延便が飛んでいるということは、防音工事は50%がまだ終わっていませんけれども、夜中に飛んでいるのです。そして、財団の方がこういう言い方をしているかどうか分かりませんが、植苗南町内会の方が、私どもの地域はいつになりますかと聞いたら、いつになるか分からないと。それは分からないのかもしれないのですけれども、意向調査後の順番を待っているわけです。南町内会は高齢者が結構多いのです。優先枠には入らなくても、もう60歳以上の人たちばかりなのです。そういう人たちが待っていて、いつになるか分からないという回答をされると、我々エアカーゴ委員にも言われています。1件でも2件でも新千歳空港周辺対策担当課長には追加でやっていただいているのけれども、もう少し、財団の人が足りないのであれば基金のほうから出すとか、そういうことをしてでも何とか早くしていただきたいと思っています。

もう一つは、土地利用計画にも絡むのですけれども、新千歳空港線と、苫小牧エリアの美沢（モダ石油）からウトナイの道の駅まで、非常に暗いのです。空港線と国道36号線が交わるには水銀灯がありますけれども、あとは真っ暗なのです。こういう暗い路線は国際空港ではあり得ないと思うのです。外から来た人にも、「暗いね、この空港の道」と言われている。近年は、シカと激突している人がたくさんいるのです。坂を上がって千歳エリアに行くと、何メートル置きに水銀灯がずっとついています。けれども、空港からT字路の交差点に向かって、美沢地区に来たら、水銀灯はほとんどないです。道の駅から苫小牧側に向かうとまた水銀灯が付き出すのです。

これは、土地利用計画のときも言おうと思っているのですけれども、何年たっても解消されていないのが現実です。

12月の遅延便は、2月2日に来た報告で70便なのですけれども、あまりにも、積雪とか天気の影響以外のものが、非常に故意的に分かっていて飛んできているというのがあるのです。

最後です。

外国機等が多いからなのか、コースを全く守っていないのです。管制官は分かっていると思うのですけれども、縦横無尽に飛ばしているのですよ。こういうことで安全運航なんかできるのかなと思っているのですよ。

我々は航路下にいます。何月何日の何便というのは分からないが、何時にここを横断しましたよとか、どっちに曲がっていききましたよというぐらいは分かりますけれども、この頃はやたらコースを無視した飛び方が多いのですよ。

これで安全運航なんかできないなと思っています。

だから、そこら辺はHAPさんのほうにもお願いするのだけれども、こういう飛び方をするエアラインはご指導いただきたいなと思っているのです。

今年は天候が非常に不順だから10分、30分遅れる遅延便はやむを得ないと思いますけれども、半端じゃないですよ、多くて。

●苦小牧市（総合政策部参与） E委員の関連ということでよろしいですね。

D委員、お願いいたします。

●D委員 前回の地域協議会で申し上げたが、列車は5分遅れても待たずに、次の便までいってしまう。30分以上も飛行機を遅らせないようにと苦小牧市に発案してもらうように前回申し上げただけけれども、言っているのでしょうか。確認してください。

空港で、搭乗客を待つのか、飛行機の故障で待つのか分からないけれども、先ほども言っているように、2時間も遅れて飛び立つような時間帯ではないよ。そうであれば、その便は駄目にして次の便に乗せるとかするようにしないと。

たった1人来ないだけで待っていることを私は何回か経験しています。北海道側から飛び立つのも、お客が来ないからといって担当者は一生懸命待っていますけれども、やっぱり、30分も遅れたらどんどん飛んでいくようにしないと。1時間も2時間も遅れて飛ぶのなら飛行機に値しないですよ。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、まず1点目として、昨年12月の遅延便が70便と多かったということで、その辺りの対応ということ、2点目として、住宅防音工事の進捗が進んでいない、3点目として、空港からの道路が暗い、街灯が少ない、4点目として、航路をしっかりと守っていないという点です。最後は、D委員からありましたが、遅延便に関してきちんと申入れをしているのかという点に関して、まずは北海道から答えられる項目をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 私から、遅延便の関係を一つお答えさせていただきたいというふうに思っております。

まず、遅延便の關係に関しましては、私どもも、E委員からもお話があったところもございまして、防衛のほうとか、CAB、HAPさんとも打合せの会というものを年に2回か3回開催しておりますので、その都度、遅延便の状況をご報告しながら、遅延便を極力出さないようお願いしたいといったことで協力をお願いしているところとなっております。

しかしながら、遅延便が多くなってしまっているということに関しましては、改めて、会議があった際に協力を求めてまいりたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当部長） HAPからも遅延便についてお答えいたします。

本当にご迷惑かけて申し訳ございません。

E委員からは、前回もこのお話をいただきました。それから、要望活動でもC A Bさんとともにこの話をいただきました。

その都度、エアライン等が集まる会議体でこの話を我々もしております。なかなか改善に至らないというのは、じくじたる思いはあるのですが、やはりE委員をはじめとした要望団の皆様はエアラインさんにもご要望に行っていらっしゃる。あれは非常に有効だと思いますので、我々もエアラインがしっかり守っていただくように、我々並びに要望団の皆様、道と引き続き申し入れていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

●苦小牧市（総合政策部参与） 北海道から、住宅防音と航空路を守っていないという点に関して回答をお願いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 住宅防音の関係についてでございます。

住宅防音の関係につきましては、今、実際にいつになるかというところは我々のほうでも今は分からないので、財団のほうにも確認をいたしますが、工事の進捗が、E委員がおっしゃられるとおりに、現在はまだ半分というような状況でありますことから、できる限り進められるように、今後の状況を見ながら、必要な予算は当然確保していきたいというふうに思っております。

あとは、コースの関係についてでございます。

コースに関しましては、実際に4者でやっている会議の中でもそういった話の情報提供をさせていただいております。先ほどのご意見の中にもございましたが、ここ最近、天気具合が非常に悪いといったところもございまして、管制の確認を取りながら運航している状況ではあるというふうにC A Bさんのほうからお伺いしています。航空交通の安全確保の観点から、一部、少しコースを外れるところもあるかもしれませんが、できる限りコースを守るような形で飛んでいただけるように、我々のほうから改めて会議の場等でも伝えてまいりたいと思っております。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、残りの国道の街灯の関係と、遅延便の関係の要望をしているかという点に関して、苦小牧市から回答いたします。

●苦小牧市（空港政策課長） まず、街灯がなく、道路が暗いというようなお話がございました。

国道36号線や新千歳空港に通じる道道新千歳空港線に街灯が少なく、シカとの衝突が後を絶たないというお話は、以前からお聞きしているところでございます。

市といたしましては、道路を管理しております国や北海道に対しまして街灯の設置を要望しているところでございますが、実現できていないのが実情でございますので、要望の手法等も変えて、今後も粘り強く要望を続けてまいりたいと考えてございます。

それから、遅延便のお話もございました。

我々は、毎年、航空機騒音対策協議会という組織で要望活動を続けておりますけれども、その中で、民間の航空会社に意見交換を行っております。昨年は10月に、要望活動の際にエア・ドゥとANAの本社にお伺いして、意見交換をさせていただきました。

その際、ANAからは、お客様との約束を極力守るという観点から、基本的には、どんな時間であろうと、目的地まで届けることを第一に考えて運航しているというお話もありました。その際に、航空会社からは、きちんと時間を守るために、例えば検査場への20分前の締切り時間の厳格化であったり、空港内のアナウンスを含めた事前周知の徹底等を行って、極力、遅延を回避する、定刻に出発するような対応を実践しているという話も伺っているところです。

今後も引き続き、航空会社を指導する立場である国交省や航空会社に、遅延の抑制につきまして、市としても粘り強く求めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

●苦小牧市（総合政策部参与） 以上が回答になりますが、よろしいでしょうか。

それでは、その他ということなので、全体を通してでも構いませんが、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、D委員、お願いいたします。

●D委員 交通企画監殿にお礼を申し上げたくて立ちました。

植苗地区の道営住宅は、2年遅れましたけれども、今日の説明のように、3月いっぱい全部完成を見ることができました。

地下水より高いところでの、基礎工事等にはご苦労かけましたけれども、立派な道営住宅が29戸完成したことに対して、心から感謝とお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

●苦小牧市（総合政策部参与） ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（総合政策部参与） ないようでございますので、協議会の閉会に当たり、交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 長時間にわたりご議論をいただきまして、ありがとうございます。

D委員からお話がありました道営住宅の件は、少し遅れましたけれども、お約束を守れたことを大変うれしく思います。

今日、様々なご意見いただく中で、遅延便のお話がありました。私は今年に入って12回飛んでいますが、11回は遅延でした。これは、天候による遅延もあったのですが、ほとんどが機材繰りみたいな言い方で、結局、利用者の方にも迷惑がかかるし、地元の方にも迷惑がかかるということで、航空会社の方も一生懸命やってくれていると思うのですけれども、あまりにも遅延が多いというのは双方にとって大変なことでもありますので、様々な機会を捉えまして、HAPさんなり、自治体になり、航空会社さんとしっかりお話ができるようにしたいと思います。

それから、防音対策の件につきましても、先般、千歳地区の皆様ともお話ししたときに、

高齢化が進んでいる中で、一日も早く防音工事を進めていただきたいという切なるご意見がございまして、私どもとしても、お約束をしている中で、ぜひ、出来得る限り速度を速めて皆様のご要望に応えられるように頑張っていきたいと思っております。

また、コースの関係もありましたし、これらは全て安全・安心に関わる非常に重要なテーマのお話が多かったと思います。羽田空港の火災の件に関しましても、私も衝撃的な場面を見ました。航空会社によりますと、カーボンで作られている機体だったので、延焼がすぐに回らなかった。そして、順次、対策を打って、皆さんが安心して脱出できたというふうに聞いていますが、正確な原因と今後の防止策については、また改めて、関心事項であると思いますので、どこかの場面で整理してご報告できればと思っております。

今日は、長時間、本当にありがとうございました。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

●苦小牧市（総合政策部参与） ありがとうございました。

続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 本日は、住宅防音対策、そして、植苗・美沢地区土地利用計画をはじめとして、新千歳空港を取り巻く様々な情勢などについてご協議いただき、多くのご意見をいただきました。誠にありがとうございます。

本日の協議結果を踏まえまして、北海道、財団と連携しながら、しっかりと取組を進めてまいりたいと考えております。

また、市に対しましてもいろいろなお指摘をいただきました。そこにつきましては、スピード感を持ってしっかり対処できるように、私たちも努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

結びになりますけれども、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をおかけしてきたところがございますが、引き続きのご理解、ご協力を切にお願い申し上げます、結びの挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

5. 閉 会

●苦小牧市（総合政策部参与） それでは、以上をもちまして、第55回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上